

平成30年 第3回
京田辺市議会定例会

一般質問（質問項目・要旨）

傍聴用

京田辺市議会

9月定例会一般質問日程

月 日	通告順位	議 員 名	ページ
9月6日 (木)	1	<small>き た か ず ひ こ</small> 喜 多 和 彦 (一 新 会)	1
	2	<small>か わ だ み ほ</small> 河 田 美 穂 (公 明 党)	3
	3	<small>な ん ぶ と し こ</small> 南 部 登 志 子 (無 会 派)	5
	4	<small>さ く ら い た つ し</small> 櫻 井 立 志 (公 明 党)	7
	5	<small>あ お き こ う じ ろ う</small> 青 木 綱 次 郎 (日本共産党京田辺市議会議員団)	8
9月7日 (金)	6	<small>こ ば や し き よ し</small> 小 林 喜 代 司 (み ら い 京 田 辺)	10
	7	<small>よ こ や ま え い じ</small> 横 山 榮 二 (日本共産党京田辺市議会議員団)	12
	8	<small>う え だ た け し</small> 上 田 毅 (一 新 会)	14
	9	<small>ま す と み り つ こ</small> 増 富 理 津 子 (日本共産党京田辺市議会議員団)	15

月 日	通告順位	議 員 名	ページ
9月10日 (月)	10	お か も と り ょ う い ち 岡 本 亮 一 (日本共産党京田辺市議会議員団)	17
	11	す ず き や す お 鈴 木 康 夫 (一 新 会)	18
	12	つ ぎ た の り こ 次 田 典 子 (無 会 派)	19
	13	に し は た と し ひ こ 西 畑 利 彦 (日本共産党京田辺市議会議員団)	21

※質問時間は、質問答弁併せて60分以内としています。

1 美しい景観の整備について

現代社会は生活が豊かになった反面、激しい競争や徹底した管理のなかでストレス社会ともいわれ、現代人は多くのストレスを抱え精神的に疲弊している。ストレスに向き合うにはゆったりとした時間の流れの中で自己と向き合うことも大切であるといわれている。

京田辺市は市民が満足している自然がある、この美しい景観を生かし市民がゆっくりとした時間のなかで、自分と向き合える環境を整備できないものか。

- (1) 市は本年度、里山の緑や水辺の空間を生かしながら、市民が心癒される場を創出し「緑に包まれた環境にやさしいまちづくり」を進めるとしているがその進捗状況は。
- (2) 水辺の散策路の整備状況と今後の活用方法は。
- (3) 市の里山の景観保全の状況は。また市民が里山の景観保全に積極的に協働・参画できるシステムはあるのか、あればその効果について聞く。

2 児童・生徒への色覚多様性の告知について

色覚多様性（色覚異常）の検査については、2003年に健康診断の必須項目から削除されたが、自分の色覚特性を知らずに進学や就職で苦慮した方もおられる。児童・生徒への告知について、市の見解は。

3 災害対策について

- (1) 大阪北部地震や西日本豪雨など、大きな被害をもたらす自然災害が多発している。本市における被害の実態と対応状況はどうか。

- (2) 台風などの際には避難勧告等が早めに発令されるようになってきたと思うが、避難の実態はどうか。また、避難所運営訓練を今年も開催されているが、その成果と今後の方針はどうか。
- (3) 今年の一連の自然災害を受けて、本市の今後の課題としてどのようなものがあると考えているのか。

4 ネットゲーム依存症について

世界保健機関（WHO）による病気の世界的統一基準である国際疾病分類の最新版に「ゲーム障害」が追加されることが決まった。

来年には、アルコール依存症と同じようにゲーム障害は人格を破壊する病気として認定される。

- (1) 小・中学生のスマホの保有状況と、ネットゲームへの対策は。また不登校とスマホの関係性を明らかにすべきでは。
- (2) 読書に興味を持ち、習慣となる取り組みを。

5 大住工業専用地域の整備について

- (1) 土地区画整理事業計画の許可申請に向けて、準備が進みつつあると聞くが、その進捗状況は。
- (2) 埋蔵文化財調査にも着手するとのことだが、内容はどのようなものか。調査期間はどの程度見込まれるのか。

1 避難所訓練・備蓄品の充実について

- (1) 全員が参加できる「シェイクアウト訓練」を。
- (2) ペットとの避難についても考えるべき。
- (3) 就学前児、小中学生の参加者への対応をもっと考えるべき。
- (4) 選べる訓練内容の項目を地域や団体に周知徹底していくべき。
- (5) 国産の液体ミルクを災害時の備蓄品に加えるよう今から検討していくべき。

2 高齢者の肺炎球菌ワクチンの定期接種制度について

- (1) 平成 26 年度から平成 29 年度の定期接種対象者の接種率は増えたのか。
- (2) 定期接種が始まって以降、市独自助成制度の利用者はどうなのか。
- (3) 65 歳の方全員が接種した場合、どのくらいの医療費削減効果があると考えているのか。
- (4) 市独自助成は継続すべきと考えるがどうか。
- (5) 年度内に国の助成制度の終了通知を定期接種未接種者に送るべきではないか。

3 職員の人材育成について

- (1) 庁内、外部研修をもっと充実すべき。
- (2) 新規採用職員の育成にもっと力を入れるべき。

4 教育問題について

河田 美穂

- (1) 生きることの大切さを訴える教育の充実を。（戦争体験者、ガン体験者、パラリンピック出場者など実体験を語っていただく等）
- (2) 小・中学校の修学旅行先を考え直してはどうか。

1 災害に強いまちづくりを目指して

6月に発生した大阪北部地震、7月から8月にかけて発生した大雨・台風被害を受けて、以下の点について問う。

- (1) 被害が想定される中山間地域の方々が避難所に行かれることはなかった。その原因と対策について問う。
- (2) 大雨時、川沿いにある普賢寺児童館を避難所とすることは現実的に問題がある。見直しを求める。また、地域によっては近隣市町への避難の方が距離的にも近く、危険性を回避できる可能性が高いと考える。近隣市町へ避難できるよう連携を。
- (3) 7月の大雨被害で土砂災害や倒木等が発生し、打田地域は3日間陸の孤島となったと聞く。市内だけではなく、近隣市町の被害想定を知っておくことも重要。対策を求める。
- (4) 昨年、今年と続いて、ナラ枯れの箇所での地滑りが発生している。適切な管理を求めることはもちろん、地域住民への注意喚起を含めた対策を求める。
- (5) 在宅避難を想定した計画策定も必要と考えるが、市の見解は。
- (6) 災害発生時の居宅訪問介護のあり方について、市は何らかの指針を示すべきと考えるが、市の認識を問う。
- (7) 災害発生時の外国人への情報提供は必須。せめて防災メールを英語だけでも発信すること。
- (8) 避難所運営訓練のあり方を問う。

2 新田辺駅西側の交通問題について

- (1) 西住宅、北田辺地区の通学安全対策（ゾーン30の設定など）を求める。

- (2) 田辺中央病院の増築・建替えに伴い、来院者の駐車場が住宅地の中（現在の職員駐車場）に移る。より一層の安全対策を求める。
- (3) 田辺中央の交差点に右折信号の設置を。

3 急増する一時帰国体験入学者への対応について

- (1) 海外在住の日本人の子どもさんが、夏休みを利用して一時帰国し、地域の学校に体験入学するケースが本市においても急増している。受入れの判断について、学校任せにするのではなく、市として指針を設けることが必要と考えるが、市の認識を問う。
- (2) 他自治体では、体験入学者本人や保護者の方から、海外での生活や習慣の違いなどについて講演をしてもらったり、現地の家庭料理実習を行ったりしているところもある。本市でもぜひ検討を。

4 居宅訪問介護ヘルパーの労働環境について

実態を把握し、事業所とともに改善に向けて対策を進めよ。

1 SDGs（持続可能な開発目標）と自治体の役割について

- (1) 国連が掲げるSDGsの理念を、本市で現在進めている「第4次総合計画」策定の中に盛り込む考えは。
- (2) 貧困・飢餓・環境対策の実現に向け、「食品ロス」に取り組む考えは。
- (3) 少子高齢化の急速な進展に伴い、地域における支えあいが必要である。市としてどのように進め、支援していくのか。また仮称「京田辺市地域支えあい活動推進条例」制定に取り組む考えは。

2 本市の魅力を内外に広くアピールする観光施策について

- (1) 北部松井山手地区の市街地活性化のため、市内外の人を誘客する施策について市の考えは。
- (2) 第2京阪道路の京田辺パーキングエリアに特産物の販売など、本市の魅力をアピールするコーナーを設置する考えは。
- (3) 大阪府泉佐野市や千葉県習志野市と交流協定を結び、アンテナショップなどを開設、特産物の販売など、市のアピールを行っているが、その他地域への拡大を図る考えは。

3 通学路の安全対策について

大阪北部地震で、高槻市において、通学途中の小学女子児童が亡くなった。この事故を受け、本市は小中学校のブロック塀の安全点検を実施したと聞く。その結果と対策は。また通学路になっている民地のブロック塀の危険箇所はあったのか、その対処は。

1 中学校給食に関して

中学校給食実施に向け具体的方法を検討するとして「中学校給食庁内検討委員会」が設置されたが、以下の点について問う。

- (1) 庁内検討委員会での検討経過、議論の内容などについて、その都度、議事録など公開していくべき。
- (2) 学校給食についての検討であり、学校教育、食育という観点で最も重視されなければならない。その点で、学校栄養士などの学校関係者の参加や意見の反映をすべき。
- (3) 中学校給食について、保護者からの要望は非常に大きい。保護者などの要望、意見を取り入れるべき。
- (4) 7月から委員会が開始されたが、現在の状況と今後の検討スケジュールの見通しなどを明らかにされたい。

2 防賀川の改修について

- (1) 7月豪雨の際、大住地域北部の防賀川は水位が上昇し、周囲の道路や農地では一部冠水する状況も見られた。治水面からみた防賀川の現状と課題についての市の見解を明らかにされたい。
- (2) 虚空蔵谷川合流部より上流域の河川改修について、現状と市の考えを明らかにされたい。
- (3) 防賀川の改修について喫緊の課題として、京都府に早急な実施を要望するよう求める。

3 各種の検診・健診について

青木 綱次郎

国保特定健診など、市が実施する各種の検診・健診について、受診者の希望する医療機関であれば京田辺市内以外のところでも受診できるよう求める。

1 第4次総合計画の策定について

まちづくりの最上位の計画となる「総合計画」について、昨年度から3カ年の債務負担行為で予算が計上され、第4次となる計画の策定が進められている。地方自治法の改正で、法的根拠がなくなった事から、今年度に策定の根拠となる「京田辺市総合計画条例」も制定され、審議会も開催されるなど、策定作業が本格化してきた中で、次の3点について聞く。

- (1) 次期総合計画が終われば、本市も人口の減少局面を迎える事が予想される中で、第4次総合計画の中では本市の目指す都市像や人口フレームなどをどの様に考えているのか。
- (2) 人口の減少による労働人口の減少などの社会情勢に加えて、本市では新名神高速道路の全線開通や、30年後とされている北陸新幹線の新駅も設置される。この様な事から、第4次総合計画では新たな視点でのまちづくりも必要と思われるが市の考えは。
- (3) 第4次総合計画の策定にあたっては市民の方の声を計画に反映する事が大切であり、計画の策定段階から広く市民の方の参画を得て、市民と一緒に策定に取り組むという姿勢が重要と思われるが、計画の策定に向けた市民の参画について、市の考えは。

2 農・福連携に対する支援方策について

京都府農業総合研究所跡地において、農・福連携の施設として「山城就労支援事業所」（さんさん山城）が活動している。農・福連携のモデル施設として府も支援されているが、市の考えは。

3 空き家対策について

小林 喜代司

人口減少社会を迎え、全国的に空き家対策が問題になっている。今年度の施政方針の中の住環境の整備の項で「空き家、空き室バンクの創設」や「空き家等対策計画」が盛り込まれている。

本市の場合、新興住宅地の空き家は不動産市場の流通性が高いことから、「空き家、空き室バンク」により住み替え等が比較的容易に進むと思われるが、市街化区域の旧村集落にある広い敷地を持つ空き家は非常に難しい。鉄道駅からも近く、優良な住宅地のストックとなる、このような物件の利活用を図るためには具体的な対策が必要であると思うが市の考えは。

1 高齢者が生き生きと過ごすため介護保険制度の充実を

- (1) 貧困と格差が広がり、低所得者にとって暮らしが厳しくなっている中で、高すぎる介護保険料を下げる。また利用料の減免制度の拡大と制度の徹底をすること。
- (2) 団塊の世代が75歳に達する時期には、介護需要等の急増が予想される。現在でも多くの特別養護老人ホームへの待機者がある中で、特別養護老人ホームの建設などの解決策が必要と思うが、市の考えは。
- (3) 後期高齢者の増加に伴い認知症高齢者の増加が予想されることから、全国の優れた経験にも学んで、認知症に対する支援の抜本的強化が必要と思うが、市の考えは。

2 子どもが輝く環境づくりの推進を

- (1) 子どもの読書環境の改善を図るためにも、小中学校に1校1名の学校司書の配置を求める。雇用にあたっては、できる限り正規の学校司書を求める。
- (2) 地球温暖化が進み酷暑日が続く。子どもの安全面からも、また災害時には避難所の役割を担う意味からも小中学校の体育館へのエアコンの設置を求める。
- (3) 平成31年4月に開園を予定していた保育園が中止になった。引き続き保育ニーズが高まることが予想される中で、どのような対策を立てるのか。

3 若者対策について

- (1) 「貧困と格差」が広がる自民党政治の下で、青年・学生の現状は大変厳しい。多くの若者は展望が見出せない状況にあり、自治体の役割が特に重要になっている。独自の青年相談室、家賃補助、結婚祝い金等の制度などをつくることを求める。
- (2) 国民主権、労働者の権利を自覚してもらうためにも若者アンケートを実施し、働く権利のパンフや憲法パンフを渡す。また、若者の要求を知って具体化することを求める。
- (3) 若者の地域への参加、各種委員会の参加を進めるための具体化を求める。

4 地元要求について

- (1) 大住ヶ丘の道路の白線が剥げてしまって見えにくい。改善を求める。
- (2) 朝夕のラッシュ時に大住駅には駅員がいない。事故があったとき等に対応ができないので必要な対策をすべき。大住駅にエレベーター設置を一刻も早く求める。

1 仮称) 南部住民センター及び南部消防署について

- (1) 南部地域の方々より、南部住民センター及び南部消防署の建設を望む声が多いが、そろそろ計画を考査してみてはいかがか。必要な物を必要な時期に合わせて計画することが大事だと考えるが。市の見解を問う。
- (2) 本市には北部住民センター及び中部住民センターがあるのは承知の通りである。この2つの住民センターを建築計画される際の北部地域の人口、中部地域の人口は何人いたのか。南部地域は現在何人の人口がいるのかを問う。
- また、センター計画の際、地域の人口密度制限を何人とされているのか。
- (3) 6月の定例会において同僚議員が南部住民センターの件を質問しましたが、その答弁はこの数年間なんら進展のない答弁であった。その答弁を踏まえて聞くが、必要であるとの見解であれば、検討委員会の設置をしていく方向である等々の答弁であってもおかしくないと思う。南部住民センターを建てるという事は一切考えていないならば、はっきりとそう答えるべきである。どう考えておられるか今一度問う。
- (4) 南部住民センターの計画を未だに行わない理由とはいったい何なのか。

2 生駒井手線において打田及び高船地域入口途中の遮断機について

異常気象が続く中、打田区は避難時に普賢寺小学校に避難して下さいと伝達されているようであるが、前回の避難勧告をされた時に遮断機が降りていて避難できなかったと聞く。

また、遮断機が降りていなかったとしても、道中の普賢寺川が溢れている上、道中の土砂崩れの危険性もあり避難経路・避難場所として相応しくないと考える。市はどう考えてどう対処をしようとしているのか問う。

1 「住まいは人権」を保障する住宅政策について

- (1) 新たな住宅セーフティネット法に対する市の認識と施策の実施状況を問う。
- (2) 市営住宅の応募の現状と課題について問う。
- (3) 住宅確保要配慮者のための施策について問う。
- (4) 居住支援協議会の役割と設置について問う。

2 障がい者（児）問題について

- (1) 障害者雇用促進法に基づく「障害者雇用率制度」での中央省庁の水増し偽装が明らかになった。許されるべき問題ではないと考えるが、市長の見解を問う。
- (2) 京田辺市における障がい者雇用の実態と課題、対策について問う。
- (3) 65歳になって障害者総合支援法の障害福祉サービス取り消し・介護保険優先問題の中で利用者のサービス負担が重くなっている事への市の認識、対策について問う。

3 就学援助制度の充実について

- (1) 生活保護基準の引き下げによる影響について問う。
- (2) 来年度の「入学準備金」支給の実施の具体化、スケジュールについて問う。

4 ペット飼育に関する問題について

市内各所で犬、猫のフン尿問題、エサのやり方等をめぐるトラブルが多発している。動物の正しい飼育、マナーをはじめ、共に生活していく上で市民共通のルールを共有するためにも、市民参加でペット条例の制定等を視野に入れた対策を求める。

5 安全で安心して利用できる道路や歩道の整備について

- (1) 旧307号線、田辺高校から中部住民センターまでの道路に面した歩道の整備を。
- (2) 新田辺東住宅内のかまぼこ状になっている道路の改善計画を。

1 住宅リフォーム助成制度について

- (1) 市内の住環境の改善と、大きな経済波及効果がある「住宅リフォーム助成制度」の認識を問う。
- (2) 「住宅リフォーム助成制度」の実施を求める。

2 商店リニューアル助成制度について

- (1) 市内の商店及び建築関連産業を中心とする地域経済の活性化に寄与する「商店リニューアル助成制度」の認識を問う。
- (2) 店舗の改装及び、店舗で使用する備品の購入を行うことに対し、その費用の一部を助成する「商店リニューアル助成制度」の実施を求める。

3 震災・防災対策について

- (1) 地震発生時の電気に起因する火災防止には「感震ブレーカー」の設置が効果的だと考えるが、その認識を問う。
- (2) 一定以上の地震による揺れを感知すると、分電盤の電気を自動的に遮断する感震ブレーカーの購入、及び設置費用の一部を助成する「感震ブレーカー設置助成制度」の実施を求める。
- (3) 京田辺市建築物耐震改修促進計画について、住宅耐震化率の目標値を95%としているが、その進捗状況及び、目標達成に向けての取り組みを問う。

1 図書館機能の更なる充実を目指して

- (1) 平成30年度より始まる駅ナカ案内所の窓口での図書回収は、利便性が大幅に向上する施策である。しかし、通勤される市民の方にとって、開設時間（9：00から17：00）に図書を返却することは難しく、常設の図書返却ポストの設置を望む。
- (2) 市内21ヶ所を巡回し市民から好評を博している移動図書館につき、①雨天時での運用、②福祉施設（病院等）など巡回スポットの拡大の検討の余地はないか。

2 社会変化に応じた適切かつ柔軟な行政運営を

- (1) 平成31年5月に予定されている元号改定、平成32年施行の民法改正に伴う、行政の影響とその対応を問う。
- (2) 通学路のブロック塀の危険状況とその対応を問う。また、建物耐震化補助制度の補助対象の拡大（耐震基準を満たさない塀など）を考えられないか。
- (3) 記録的な猛暑が続いた今夏であるが、弱者である幼稚園児への空調冷房化が急がれる。本市の実施見通しを問う。
- (4) 城陽市では、罰金を含むごみ持ち去りを禁止する廃棄物減量適正処理条例を、平成31年9月から全面施行と報じられた。近隣では枚方市に続くものであり、それにより違反業者の本市への流入増大を心配する市民の声がある。本市のスタンスを問う。
- (5) 平成35年度、城陽市での大型アウトレットモール開業に伴う本市への影響（車両流入による渋滞など）とその対応を問う。
- (6) 万博誘致（平成30年11月決定予定）を見越した、本市の持つ交通利便性を生かした持続的、戦略的な観光誘客システム（体制）構築を望む。

1 未来の新幹線より明日の公共交通の充実を計るべきだ

- (1) 30年後の北陸新幹線駅誘致にかかる市の負担金及び費用対効果を示せ。
- (2) 新幹線誘致による市民サービスの低下はしてはならないのは当然である。現状より市民サービスが充実できるのか。
- (3) 多額の費用負担を行うのなら、その予算で公共交通の充実や各駅のバリアフリー化や安全確保に充てるべきだ。

2 夜間中学の設置に向けて

- (1) 府教委のニーズ調査の現状を示せ。
- (2) 府や近隣の自治体と夜間中学設置に向けた議論はどのように行っているのか。
- (3) 埼玉県は分校方式としている。埼玉県川口市や千葉県松戸市の夜間中学設置に向けた取り組みなどを視察してはどうか。

3 教育長に問う

- (1) 今年6月18日に起こった大阪北部地震で、高槻市立寿栄小学校のブロック塀が倒壊し女子児童が死亡した。市内においての点検状況はどうか。
- (2) 今年、所管における熱中症による対策と救急搬送の状況はどうか。
- (3) 幼稚園のエアコン設置状況と行事等の見直しはどうか。
- (4) 中学校給食実施に向けた取り組みの現状を示せ。

4 職員綱紀肅正を徹底せよ

- (1) 昨年11月、市消防職員による不祥事が起こった。過去には野外活動センター職員の公金に関する不適切な事件も起こっている。公務員として厳しく対応せよ。
- (2) 長期の欠勤においては医療機関の診断書を必ず提出させ、チェックせよ。
- (3) 研修等を充実せよ。

5 ダムの放流について

大雨の時などダム放流の周知はどのようにしているのか。

1 地震・水害などの防災対策について

- (1) 6月18日の大阪北部地震による本市体制と住民の行動形態の検証について問う。
- (2) 7月5日からの降雨により西日本で大水害が発生したが、本市として本水害をどのように捉え教訓として考えているのか。また、気候変動により、これまでの常識を見直さなければならないと考えるが、本市地域防災計画の見直しの課題とその有無を問う。
- (3) 避難準備、避難勧告、避難指示の発令と行動において、行政と住民との避難に関する認識は、一致しているのか。区・自治会と徹底した議論が必要と考えるが、本市の考えを問う。
また、避難所施設は、安全が確保され、施設整備も万全か。課題はないか。
- (4) 大阪北部地震では基準不適合のブロック塀により尊い命が奪われたが、本市として、公道に面している施設で建築基準に不適合となる構造物に対して本市の考えを問う。
また、調査・改修などへの支援策はどのように考えているのか。
- (5) 住宅開発や土砂採集などの開发行為に対し、災害防止に向け、面積等の申請・届出基準や設計基準を見直し、規制を強化する必要がある。また、これまでに開発された区域や開発中の区域での現況を調査確認すべきと考えるが、本市の考えを問う。
- (6) 水害の可能性を含んでいる田辺中央北側の市街化と整備計画については、田辺東・西住宅の避難場所も考慮した盛土による地盤高の引き上げや調整池を含んだ整備計画を策定すべきと考えるが、本市の認識を問う。
- (7) 天井川の耐震と流下能力は確保されているのか。本市の認識を問う。

2 ゴミ焼却場建設に伴う建設費の動向について

「枚方市・京田辺市可燃ごみの広域処理に関する基本協定書（平成28年4月11日）」8. 可燃ごみ広域処理施設に係る用地の取得等に記載されている「・・・用地の取得及び粗造成に関する事務については・・・一部事務組合の共同処理する事務から除くこととし、京田辺市が行うものとする。」の粗造成の内容とこれに要する事業予算を明確に示すべきである。また、道路整備や国道との交差点改良は、基本協定に基づく案分と理解しているが、間違いないか。

3 歩道整備等について

- (1) 『（通称）とんち坂』は、小学校・幼稚園・保育園の通学・通園路であるが、歩行出来る状況でなく、また、ベビーカーやお年寄りも歩行出来ない。早期に改良すべきである。本市の考えを問う。
- (2) 旧307号（JR踏切～長尾谷）の歩道整備は、住民の強い要望であり早期に整備計画を策定すべきである。本市の考えを問う。

4 学校プール利用について

プール利用にあたって、熱中症対策としてプールサイドに日よけ屋根等を施し、利用期間を確保すること。